

# イデックスオイルレポート ~For a week~

2023/5/29 (株)新出光

## 【概況】<米国債務上限問題~OPECプラスの産油政策>

●19日、米野党共和党の交渉担当者が、債務上限問題を巡るバイデン政権との交渉からの離脱を認めたと伝わり、これが市場の楽観ムードに冷や水を浴びせる格好となり、景気減速やエネルギー需要の鈍化懸念が再燃。米株価の下落も、株式と並ぶリスク資産とされる原油の下押し要因となり相場は71.55ドルへ続落しました。

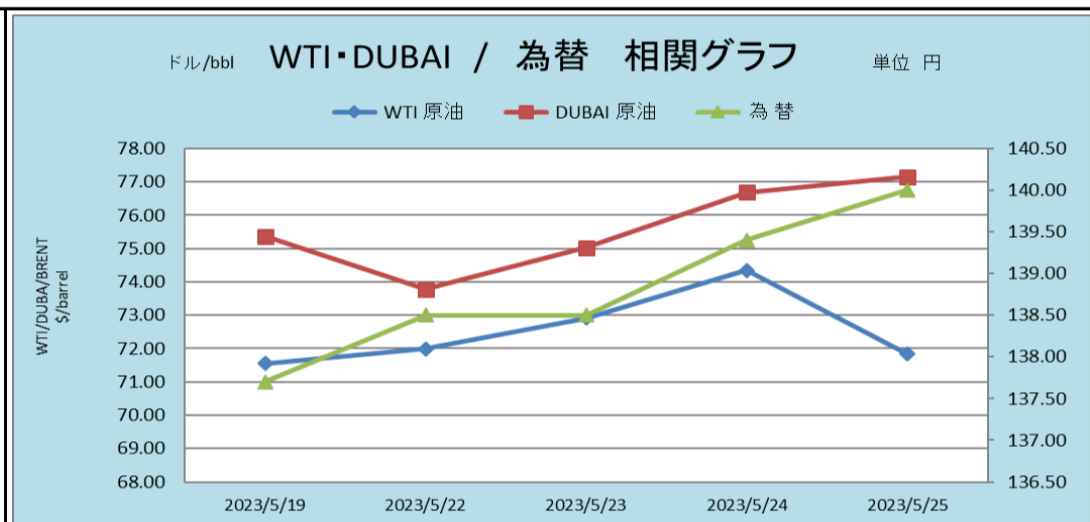
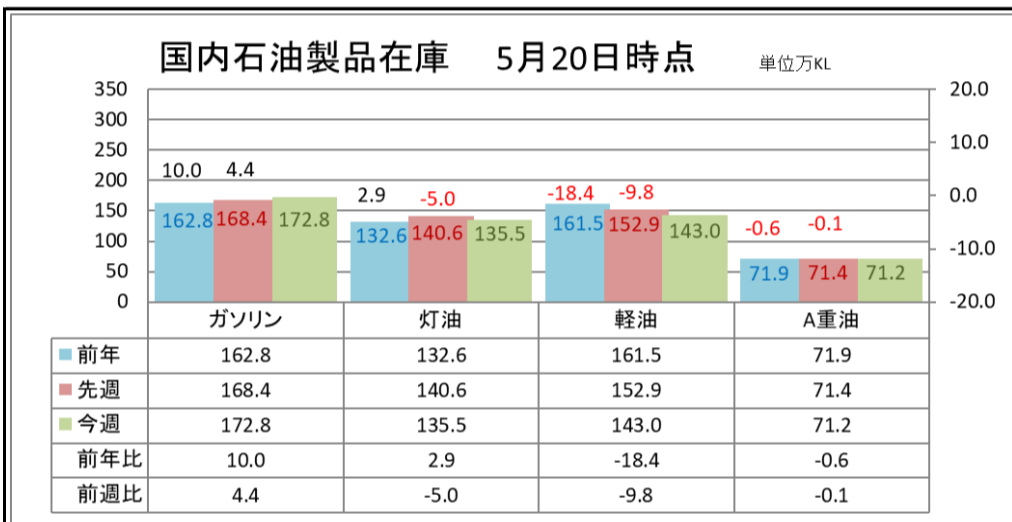
●22日、国際エネルギー機関(IEA)が先週公表した報告書によると、今年後半の石油需要は供給を日量200万バレル上回る見通し。最近カナダや中東の産油国が生産量を減らしていることと合わせて相場を下支えし71.99ドルへ小反発しました。

●23日、石油輸出国機構(OPEC)加盟国とロシアなど非加盟産油国で構成する「OPECプラス」のうちサウジアラビアなどは4月、原油生産量を自主削減することを表明。今月から自主減産が実施されている。サウジアラビアのアブドゥルアジズ・エネルギー相はこの日、カタールで開かれた経済フォーラムで、原油の投機筋が「4月には痛い目に遭った」と指摘。その上で同筋に対し「気を付けるように」と警告した。これを受け、OPECプラスが来週4日に控える会合で追加減産が踏み切られる可能性があるとの懸念が浮上し、需給逼迫への警戒感が台頭し相場は72.91ドルへ上伸しました。

●24日、米エネルギー情報局(EIA)が午前公表した週報(19日までの1週間)によると、原油在庫は前週比1250万バレル減と、市場予想(80万バレル増=ロイター通信調べ)に反する大幅な取り崩し。ガソリン在庫は210万バレル減と、減少幅は予想(110万バレル減)を上回った。週報を受けて需給逼迫懸念が増幅。米メモリアルデー(戦没者追悼の日、29日)を皮切りに始まる夏場の旅行シーズンに伴う燃料需要の拡大期待も買いに拍車を掛けたとの事で、相場は74.34ドルへ続伸しました。

●25日、ロシアのノバク副首相は25日、同国メディアに対して現行のOPECプラスの産油政策をめぐり、6月4日のOPECプラス会合で「新しい手段が講じられるとは思わない」と発言した。また、プーチン大統領が24日にエネルギー価格が「経済的に正当な」水準に近づいており、ロシアはエネルギー供給に関する義務を引き続き果たしていると述べた。ロシアが追加減産を重要視していないと受け止められたことで、追加減産観測が後退し、原油が売られ相場は71.83ドルへ反落しました。

5月26日 16:00現在 WTI原油 72.16ドル 為替 1ドル 140.89円



### 次回元売変動予測 6/1~ 元売変動予測

ガソリン	↑	+1.7
灯油	↑	+1.7
軽油	↑	+1.7
A重油	↑	+1.7
LSA	↑	+1.7

※原油コスト「+2.5円」  
 ※激変緩和補助金「-11.9円」前週比-0.8円  
 ※現時点での予測です。

## 【製品卸価格】

◀今週▶ 今週の元売り仕切り改定は、3社ともに原油コストは「+0.5円」、補助金は、「-11.1円」、都合「-0.1円」の値下げ改定となりました。資源エネルギー庁の公表する全国レギュラーガソリンの22日時点の小売価格平均は168.1円となっております。

◀5月27日以降▶ 次回の元売り改定は、原油コストはサウジ調整金込みで、「+2.5円」、激変緩和補助金は「-11.9円」の見込みで、都合「+1.7円」の改定の予測となっております。

## 【次世代エネルギー】<核融合炉周辺装置の研究開発の加速と、米国・英国を拠点とした事業拡大を強化>

京都フュージョンエンジニアリング株式会社は、主力製品である核融合炉周辺装置やプラントの研究開発を加速させていきます。加えて、米国・英国を拠点とした事業拡大をさらに強化し、世界におけるいち早いフュージョンエネルギーの実現と産業化に向けて邁進します。また、企業規模の拡大に伴い、ガバナンス強化にも取り組まれるとの事です。当社は京都大学の長年にわたる核融合研究の成果に基づき2019年に設立された、核融合特殊プラント機器の開発に特色を持つエンジニアリング企業です。

プラズマ加熱装置、熱取り出しブランケット、高性能熱交換器、水素同位体ポンプを始めとした先端核融合工学分野において世界有数の技術力を有しており、英国原子力公社を始め全世界の核融合研究開発機関・企業を顧客に持ちます。

核融合は、核分裂とは根本的に異なる技術であり、大きな圧力と高い温度において水素原子同士が結合することで、膨大なエネルギーが放出されます。また、海水から燃料を取り出せるため、事実上無尽蔵の燃料が地上に存在し、温室効果ガスを排出しないことからエネルギー問題と環境問題を根本的に解決する可能性を秘めるエネルギーです。太陽や恒星が輝くエネルギー源であるフュージョンエネルギーは、エネルギー問題と地球環境問題を同時に解決する次世代エネルギーとして期待されています。国際プロジェクトとして進められているITER計画に加え、近年では諸外国で民間投資が増加したことにより、フュージョンスタートアップによる研究開発も加速し、フュージョンエネルギーの早期実現と産業化に向けた動きが活発化しています。